

## つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 377号 2011.5.16 発行 社会政策研究所

---

消費活動による東日本大震災の被災地支援。ユニークな取り組みを集めてみました。【kobi】

### 「三陸鉄道」のトレインケーキ、京橋の鉄道カフェが復興支援で商品化

京橋経済新聞 2011年5月13日



#### 「三陸鉄道」のトレインケーキ

電車や新幹線の車両をデザインしたケーキをネットなどで販売するトレインケーキファクトリー（大阪市都島区野江2）が5月15日、「三陸鉄道」をデザインしたケーキの販売を開始する。

トレインケーキファクトリーは、鉄道カフェ「大阪京橋ドクターイエロー」（都島区東野田町2、TEL 06-7492-1264）を運営するサクランドグループのケーキ製造販売をする部門。以前は外注していたケーキを鉄道カフェで提供していたが、「細部までこだわって作り込みたい」と、パテシエや出資者などの賛同者らの協力の下、同部門を立ち上げた。

アレルギーを持った子どもにも食べてもらえるように小麦や卵を使用しないものや、新型車両をデザインしたケーキの試作を重ね、4月中旬からネット販売やカフェ内での販売を開始した。店名にもなっている新幹線運行区間の設備検査用車両「ドクターイエロー」のほか、のぞみやレールスターなどの新幹線、環状線、京都線、大和路線などの通常車両のケーキなど取り扱う。

今回、東日本大震災を受けて「鉄道カフェ」として何かできることはないかと考えたオーナーの網島透さんが、全線復旧に向け膨大な費用を必要とする岩手県の鉄道会社・三陸鉄道に話を持ちかけ実現した。ほかのケーキに比べて車両の赤と青のラインの再現やケーキの土台に貼り付けるパーツも多く難しかったというが、三陸鉄道の許可を得て販売開始にこぎ着けた。「このケーキを食べながら、今一度地域鉄道の利便性・重要性について考えるきっかけになれば」と網島さん。

価格は、通常車両2両とレトロ車両1両のセットで3,000円（送料別途）。ネットと鉄道カフェ店頭で販売し、利益全額を義援金として三陸鉄道に送る。

鉄道カフェの営業は土曜・日曜・祝日の12時～18時（学休期間中は営業）。

### 「東北のお酒 飲もう」 女性酒造家招き、大阪で29日イベント

産経関西 2011年5月15日

日本酒を通して東日本大震災の被災地を支援しようと、大阪市北区で日本酒バーを経営する中野恵利さん（43）らが29日、地震で被害を受けた岩手県の蔵元の女性杜氏（とうじ）ら全国の女性酒造家9人を大阪に招き、各地の日本酒を味わうイベントを開催する。収益金は復興支援のため全額寄付するといい、中野さんは「日本酒を飲んで被災地を後方支援したい」と話している。

お薦めの純米酒を紹介した「純米主義」（小学館）という著書もある中野さんは震災後、

交流のある東日本の蔵元約20軒に連絡を入れた。

「梁（はり）は落ち、商品も倒れて割れるなどかなりのダメージを受けています」「建物も一部損壊がありますが、最低限の補修は済みました」

被災した蔵元からはこんな報告が届いた。中野さんはそれらを経営する日本酒バー「杜氏屋」のブログを通じて紹介。あわせて「被災地のお酒を飲もう！」などと自身のコメントも掲載し、愛飲家らに日本酒を通じた支援を呼びかけてきた。

イベントは、「乙女の日本酒プロモーション」と銘打ち、女性酒造家9人が酒造りに対する考え方などについて意見交換。それぞれ純米酒など各3種類の酒を用意し、入場料とは別に、ワンショット300円程度で味わってもらう。

地震で酒蔵の煙突や壁が崩れた「月の輪酒造店」（岩手県紫波（しわ）町）の杜氏、横沢裕子さん（36）は「被災地だけでなく、日本全体が元気をなくしているのが残念。東北のお酒を飲んでもらうことで支援をお願いしたい」と話している。

中野さんは「被災地のために大阪でも何かの形で役に立ちたい。一刻も早い復興を祈って日本酒を味わってほしい」と参加を呼びかけている。

イベントは午後1時から、大阪市北区中崎西の済美中崎町コミュニティーホールで。問い合わせは、杜氏屋（電話06・6371・0979）。

### 植村花菜さんら被災地支援ライブ

共同通信 2011年5月14日  
東日本大震災の被災者支援チャリティーコンサートで、  
地震発生時刻に合わせ黙とうする出演者ら  
14日午後2時46分、大阪府吹田市の万博記念公園

東日本大震災の被災者を励まそうと、植村花菜さんや加藤登紀子さんらが14日、大阪府吹田市の万博記念公園でチャリティーコンサートを開催、それぞれの思いがこもった歌声を響かせた。コンサートは「顔晴（がんば）ろうニッポン！手をつなごう関西！ What a Wonderful World in KANSAI」。藤井フミヤさんと藤井尚之さん、海援隊など17組のアーティストが登場した。



ハウンドドッグの大友康平さんは「復興には時間がかかるが神戸というお手本がある」。加藤さんは「元気出していこう」と呼び掛け、被災者を勇気づけようと作詞作曲した「どこにいますか」などを熱唱した。

小学生のとき阪神大震災を経験した植村さんは「諦めずにいたら心から笑える日が来る」と語り、ヒット曲「トイレの神様」を披露。中継映像は、福島県郡山市や仙台市青葉区など全国6カ所のライブハウスで無料上映した。

地震が起きた午後2時46分には観客約1万5千人が黙とうし、犠牲者を悼んだ。入場料は全て義援金として被災地に送られる。

また、谷村新司さんも14日、被災者を支援するため堺市内で公演。堺市に避難している被災者約30人を含む約1400人を前にヒット曲「昴」や「いい日旅立ち」のほか、新曲「今伝えたい」を熱唱した。

### ビリケンさん、復興支援に立つ バンダナ販売、義援金に

朝日新聞 2011年5月4日  
被災者支援のため通天閣で販売されたバンダナ

「いつまでもすわってられへん！」。大阪・通天閣の展望台で座りっぱなしの幸福の神様ビリケンが、ついに拳を突き上げて立ち上がった――。

一風変わったビリケンが4月30日、東日本大震災の被災者支援のため通天閣で販売されたバンダナに登場。1枚500円。売上金は義援金になる。



大阪に残るビリケン像は、さわると願いがかなうという足裏を突きだしたまま鎮座する。客にいじられる本業をこなしつつ、「分身」の活躍を祈っている。

## 展覧会収入 被災地に届け

朝日新聞 2011年5月14日  
震災被災者を支援するチャリティー企画展を開いている「画廊飛鳥」の喜多龍之助さん＝明日香村平田

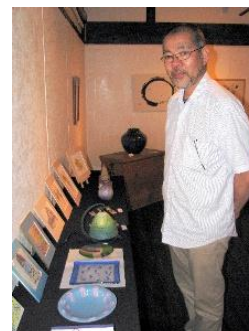
### ◆陶芸・絵画...作家30人

東日本大震災の被災者を支援しようと、ガラス工芸や陶芸、絵画などの作家約30人が、チャリティー展「私も応援しています!」を明日香村平田の画廊飛鳥で開いている。個々の作家が売った金額の40%以上を日本赤十字社県支部に寄付する。22日まで(17日休み)。

出品しているのは、ガラス工芸の安田麻里さん(明日香村)、山田裕子さん(吉野町)、矢野学さん(香芝市)、陶芸の東川和正さん(御所市)、朝鮮唐津焼のチョン・ギマンさん(福岡県)、照明の坂本尚世さん(大淀町)、絵画の西田マコさん(米サンフランシスコ)ら。

画廊主の喜多龍之助さん(47)が、親交のある画家が「被災者を支援したいが、手元にあるのは我が子のような作品だけ」と漏らすのを耳にしたのを機に作家らに声をかけた。来廊した人に値段を決めてもらうオークション方式などで、販売価格は普段よりかなり安いという。

画廊飛鳥は、入場料の70%以上を被災地に寄付するライブは使用料が無料という企画も行っている。15日正午～午後4時は大阪府河内長野市の「そば打ち名人夫妻」、吉村禎二さん、祐子さんがそばを無料でふるまう(募金箱を設置)。問い合わせは画廊飛鳥(0744・54・5533)へ。



## 支援購入 首相の倍 橋下知事、東北特産品ショップで

産経関西 2011年5月13日  
店の担当者から商品の説明を受ける橋下知事(右)  
大阪・心斎橋の「きた東北発見プラザ j e n g o」

東日本大震災の被災地を応援しようと大阪府の橋下徹知事は12日、大阪市中央区にある青森、岩手、秋田3県の特産品を販売するアンテナショップ「きた東北発見プラザ j e n g o」を訪問。「東北の商品購入で被災地の支えになる」と盛岡冷麺や地酒などを購入した。

橋下知事は11日の記者会見で、菅直人首相が8日に東京の福島県アンテナショップを訪れたことについて「菅首相が8千円ちょっと買い物したので、僕は2万円ぐらいは買いたい」と発言。この日も店の担当者の説明を受けながら、次々と買い物かごに商品を入れた。店内では特別に煮物やせんべいなども試食した。

結局、橋下知事の購入金額は計約1万6千円に。買い物終了後、知事は「おいしそうな商品がたくさんあって、全部魅力的」と述べたが、購入金額が“公約”だった2万円に達しなかったことについては、「僕の貧乏性が出たんですかね。府も緊縮財政なんで」。

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにはブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行